

令和7年度 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）及び新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）に係る事業実施報告

交付対象事業の名称	事業の目的・概要	R7年度 国費実績額 （円）	令和7年度事業取組状況	重要目標（KPI）	単位	基準値	目標値	実績値	目標値 （事業最終 年度）	実績値累計	進捗率	実施結果を踏まえた事業の今後の方針、 未達成の理由等
チームかしたら ローカルSDGs推進事業	【事業目的】 ローカルSDGsを推進するため、 「チームかしたら リビングラボ」 を開設し、官民連携したまちづくり を行う。 デジタルを活用した第一次産業の収入増とレジリエンス向上のための事業 【事業概要】 ローカルSDGsを推進する「チームかしたら リビングラボ」の中で、地元で活躍する企業や団体、教育機関や地元住民が協働・共創しながら新しいビジネスモデルやマーケットを創出し、地域経済および観光経済を活性化させる。取組は大手出版社が都市圏へ情報発信し、外部からの人材や資金の流入を目指す。	5,849,000	「チームかしたら」を中心としたリビングラボの取組を進め、鹿島・太良の地域資源を活用した脱炭素ツアーやスローツーリズム、駅を活用したイベント等を実施し、地域内外への情報発信と交流人口の拡大を図った。 また、多良岳や有明海をフィールドとした木育教室、生き物教室・調査、ネイチャーポジティブに関する環境イベント等を実施し、自然環境への理解促進を図った。さらに、多良岳への広葉樹の植樹、Jクレジットの認証・創出、LEDの普及支援、観光客等と第一次産業従事者をつなぐ取組を進め、自然環境の保全と脱炭素、第一次産業の活性化を一体的に推進した。			R6	R7	R7	R8	R6～R7	R6～R7	KPI①は令和7年度目標4件に対し2件。伴走支援を行い、SDGsを推進する事業を増やす。KPI②は目標5社増に対し6社増。SDGsパートナーの活動の場を増やす、広報するなど、参加者が増えた。KPI③は目標1人に対し1人。目標を達成した。KPI④は目標2,100,000円に対し販売収入0円。太良町有林のJクレジットは令和7年度にモニタリング報告・クレジット認証まで進捗した。令和8年度は認証したJクレジットの販売・広報を本格化することで、KPIの達成につなげる。
				①チームかしたらリビングラボから生まれたローカルSDGs事業件数	件	0	4	2	12	5	42%	
				②肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー企業数	社	85	5	6	100	96	96%	
				③新事業における新規雇用者数	人	0	1	1	3	2	67%	
				④太良町有林クレジット販売収入	円	0	2,100,000	0	4,200,000	0	0%	
鹿島市シビックプライド醸成事業	人口減少やライフスタイルの多様化、少子高齢化の進行による住民同士のつながりの希薄化、働き手や地域活動の担い手の不足など、市全体が衰退傾向にある。この課題解決には、関係人口の増加が必須である。そのため、市民だけではなく、鹿島市と関わりのある方々にも、シビックプライドが醸成されるような取組を展開し、鹿島に対する誇りと地域の発展に関与する意識を向上させるとともに、地域外には鹿島ファンが増えていくような効果的な取組を推進する。	3,177,500	シビックプライドの向上のための事業として、市長によるトップセールスや広報用SNS画像・動画の制作発信を実施するとともに、戦略的なシティプロモーションとして、ロゴ・キャッチコピーの制作、デジタルサイネージでの動画の放映を行った。			R5	R7	R7	R8	R6～R7	R6～R7	市長のトップセールスは事業を廃止し、事業3年目において「戦略的なシティプロモーションの展開」に移行していくにあたり、行政発だけではない、市民参加型の情報発信「市民みんなが広報マン」を強化し、行政だけでは届けられない情報のリーチ、主体的に発信する市民の育成など、市民参加型の戦略的なシティプロモーションを展開する。 地域へのUIターン数が未達成となっている。移住支援金に対する問い合わせはあったものの、該当者が1人であった。引き続き相談者に対し、丁寧な対応を行う。
				①地域へのUIターン数	人	3人	7人増	1人増	20人増	5人増	25%	
				②自慢できる魅力がある市民の割合	%	67.6%	5%増	2%増	15%増	4.67%増	31%	
				③中高生の高校・大学卒業後に何年か市外に住んだ後、鹿島市に住みたい人の割合	%	11.3%	6%増	5%増	22%増	15.94%増	72%	
				④鹿島市の認知度	%	0%	6%増	48.6%増	42%増	58.6%増	140%	

令和7年度 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）及び新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）に係る事業実施報告

交付対象事業の名称	事業の目的・概要	R7年度 国費実績額 （円）	令和7年度事業取組状況	重要目標（KPI）	単位	基準値	目標値	実績値	目標値 （事業最終 年度）	実績値累計	進捗率	実施結果を踏まえた事業の今後の方針、 未達成の理由等
むしろこれから 鹿島・太良プロジェクト～唯一無二の地域資源とローカル鉄道を活用した有明海沿線広域連携スローツーリズム推進～	○肥前鹿島駅エリアを新たな交流拠点施設として整備:鹿島・太良地域のスローツーリズムの発信・周遊拠点、えきやど旗艦店、飲食・物販、交流スペース ○地域全体におけるスローツーリズムのブランディング、受け入れ体制づくり:行政区域にとらわれず、地域全体をパッケージ化して、ブランディングし、各自治体や地域団体等が、連携して、効果的に観光誘客に取り組む 仕掛けや体制を構築する。また、地域資源や鉄道を活用して、えきやど（宿）の地域展開や着地型観光商品やグルメなどの観光コンテンツ化を進める。	0	新駅舎の建築に伴い必要となる駐車場の整備（進入口） ※工事現場等での障害により令和8年度へ繰越			R6	R7	R7	R16	R7	R7	スローツーリズムのフロントとなる肥前鹿島駅エリアの整備を官民連携で進めながら、地域全体を”スローツーリズムを楽しめる地域”とするため、現地事務所KATアラボスタッフが、地域に入り込み、地域の皆さんと一緒に地域資源の磨き上げなどの、地域づくりを進めている。その結果、地域では、地域の自発の動きとして、新しいイベントや体験観光ツアー、グルメなどの開発が進んでいる。また、民間事業者が主体となり、企業誘致ビルや新しいオーベルジュ、ゲストハウスなどの宿の開業が進むなど、様々な動きが広がり始めている。これから、令和9年度の肥前鹿島駅新駅舎オープン、令和11年度の肥前鹿島駅駅エリアの完成に向けて、地域の自発の動きをさらに加速させていくため、引き続き事業を進めていく。
				①鹿島・太良エリアの観光入込客数	千人	3,939千人	120千人増	120千人増	1,200千人増	120千人増	10%	
				②鹿島市の観光入込者数/鹿島市の鉄道利用者数	%	5.50%	0.01%増	0.01%増	0.1%増	0.01%増	10%	
				③沿線えきやどの宿泊者数（肥前鹿島駅えきやど+鹿島・太良沿線えきやど）	人	0	0	0	1,110	0	0%	
				④肥前鹿島駅エリアの飲食・物販ゾーン（鹿島・太良に根付く地域食品や地域産品を新しい価値観で発信する飲食・物販事業、店舗+E C サイトでの販売額を想定）の売上額	百万	0	0	0	330	0	0%	
				⑤肥前鹿島駅エリアへの新規出店者数（宿、商店、チャレンジショップなど）、新規イベントの回数	回	0	7	3	16	3	19%	
				⑥特産品や旅行商品、地域をPRするイベント（体験ツアー、鉄道ツアー、グルメ商品開発、地域イベントなど）の新規回数	件	0	15	7	28	7	25%	